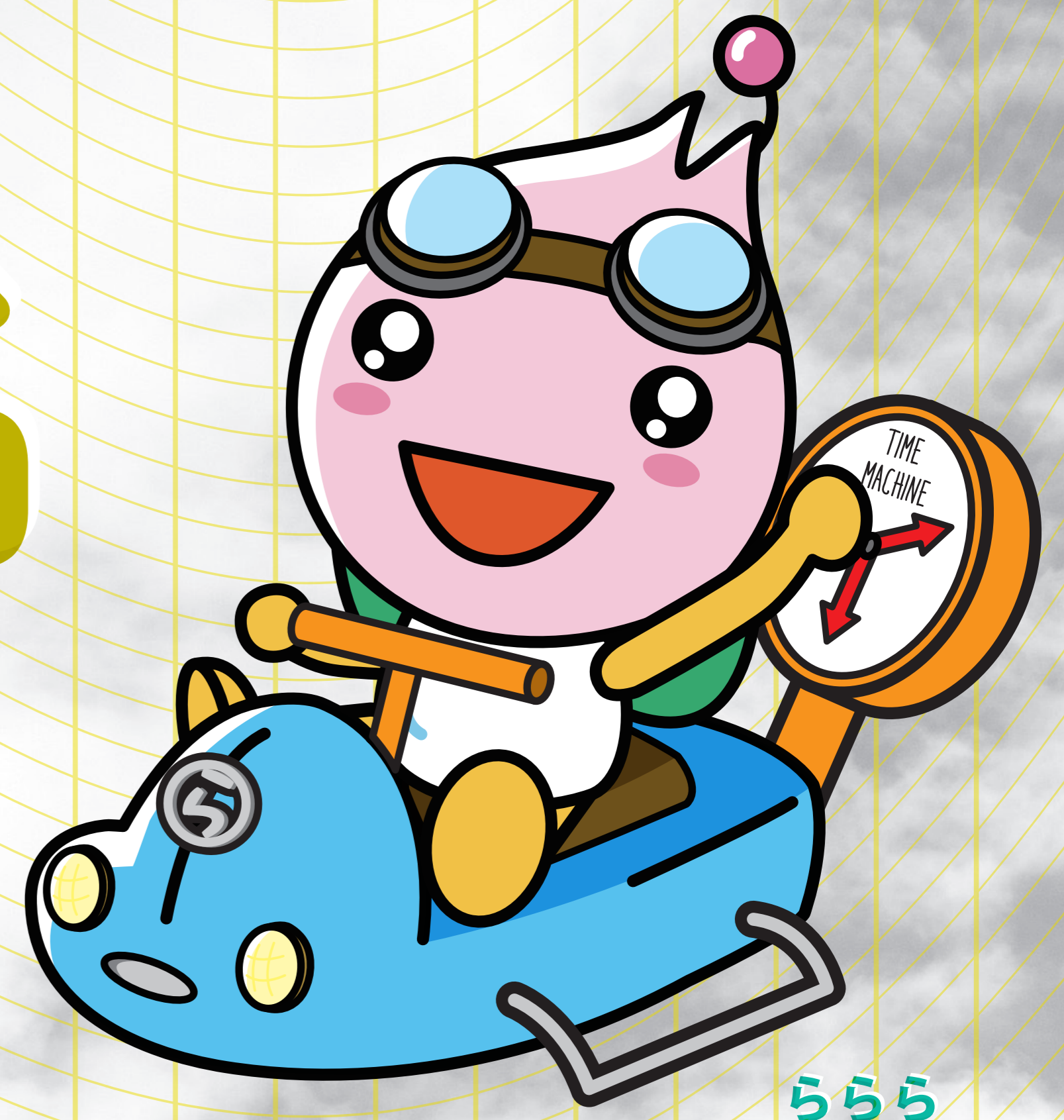


# 時をかけるららら

RARARA the TIME TRAVELER

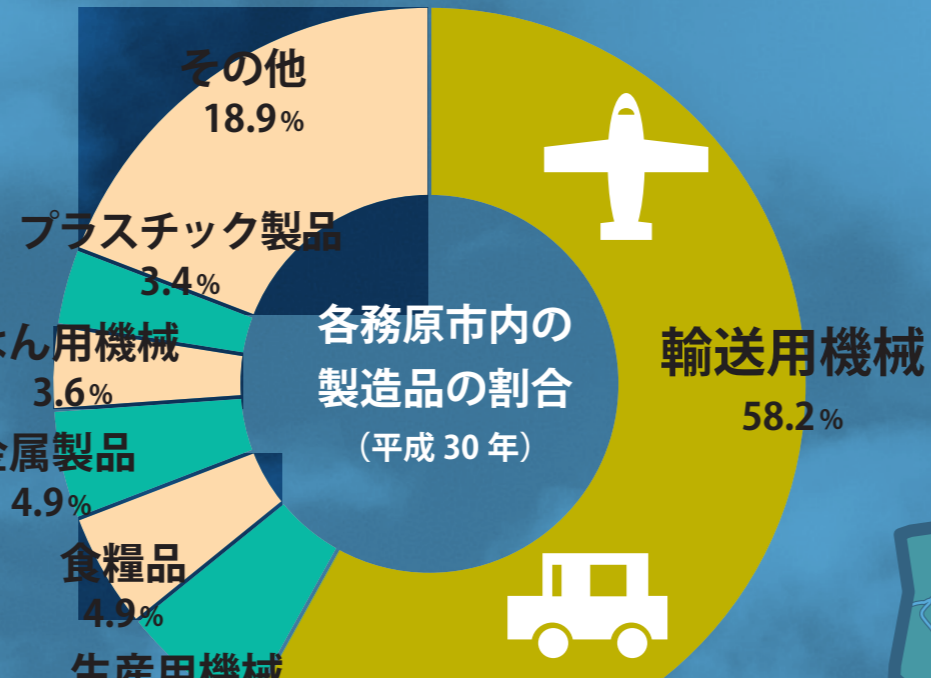
かかみがはらし ある 各務原市を歩くとたくさん見かける、工場やお店、畑に田んぼ。  
各務原の産業は、昔から現在まで、どんなふうに変わってきたのかな？  
タイムマシンに乗り込んで、らららと一緒に、各務原の産業の秘密を  
とあ 解き明かす「時間の旅」に出かけよう！



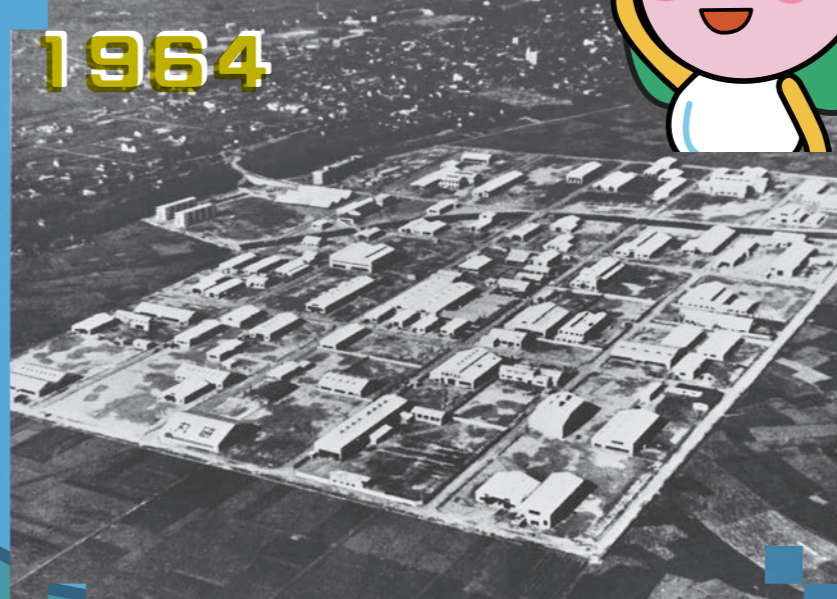
ららら  
各務原市マスコットキャラクター

## 工業 INDUSTRY

各務原市は、岐阜県を代表する「ものづくりのまち」です。中央部にある航空機産業を中心とした多くの工場や、10か所の工業団地があり、特に自動車や飛行機といった「輸送用機械」の生産がさかんです。  
そのきっかけとなったのは、1917(大正6)年に開設された「各務ヶ原飛行場」です。1922(大正11)年には、飛行場に近い三柿野に「川崎造船所(現在の川崎重工業)各務原分工場」ができ、飛行機の生産が始まりました。1936(昭和11)年ごろになると、周辺にも飛行機に関する工場がたくさんつられ、「ものづくりのまち」としての基礎ができました。しかし、太平洋戦争中の空襲で多くの工場が壊され、たくさんの方が亡くなりました。  
戦争が終ると、飛行機の生産が再開され、戦後初めての国産飛行機など、多くの飛行機が作られるようになり、現在へとつながっています。



1963(昭和38)年になると、那加・稲羽・蘇原・鷺沼の4町がひとつになって「各務原市」が生まれました。その各務原市で、日本初の工業団地の1つとして、1964(昭和39)年につくられたのが「岐阜県金属工業団地」です。その後、次々と工業団地がつくられ、1998(平成10)年には、先端産業や研究開発施設が集まる「テクノプラザ」が完成しました。



**CHECK IT OUT! しらべてみよう!**  
昔の各務原では、あるものの生産がさかんでした。それは、特に北の山のみわりで多く作られ、今でも鷺沼地区の「須衛」という地名に見ることができます。さて、「あるもの」とは一体なんだろう？

わからなかったら、右のQRコードでヒントを見てみよう



## 商業 COMMERCE

国道21号のまわりには、たくさんのお店や大型ショッピングセンターが集まっています。多くの方が、自動車を使って買い物に出かけます。  
大正から昭和初期のころは、鉄道や徒歩で移動する人が中心でした。1920(大正9)年に岐阜～各務ヶ原間の鉄道(現在のJR)が開通すると、1926(大正15)年には、現在の名古屋鉄道が開通し、その2年後には、現在とほぼ同じ路線になりました。  
1923(大正12)年に、今の市民公園の場所に岐阜大学(当時は岐阜高等農林学校)が建てられると、飛行機工場の広がりなどもあって、鉄道の利用者や駅近くの人口が増え、那加駅や六軒駅、名電各務原駅、鷺沼駅などの駅前に商店街が生まれました。  
1955(昭和30)年ごろから木曾川に橋がかかり、国道21号や江南閣線などの大きな道路ができると、お店も駅前の個人店から大きな道沿いの大型店へと移っていきました。

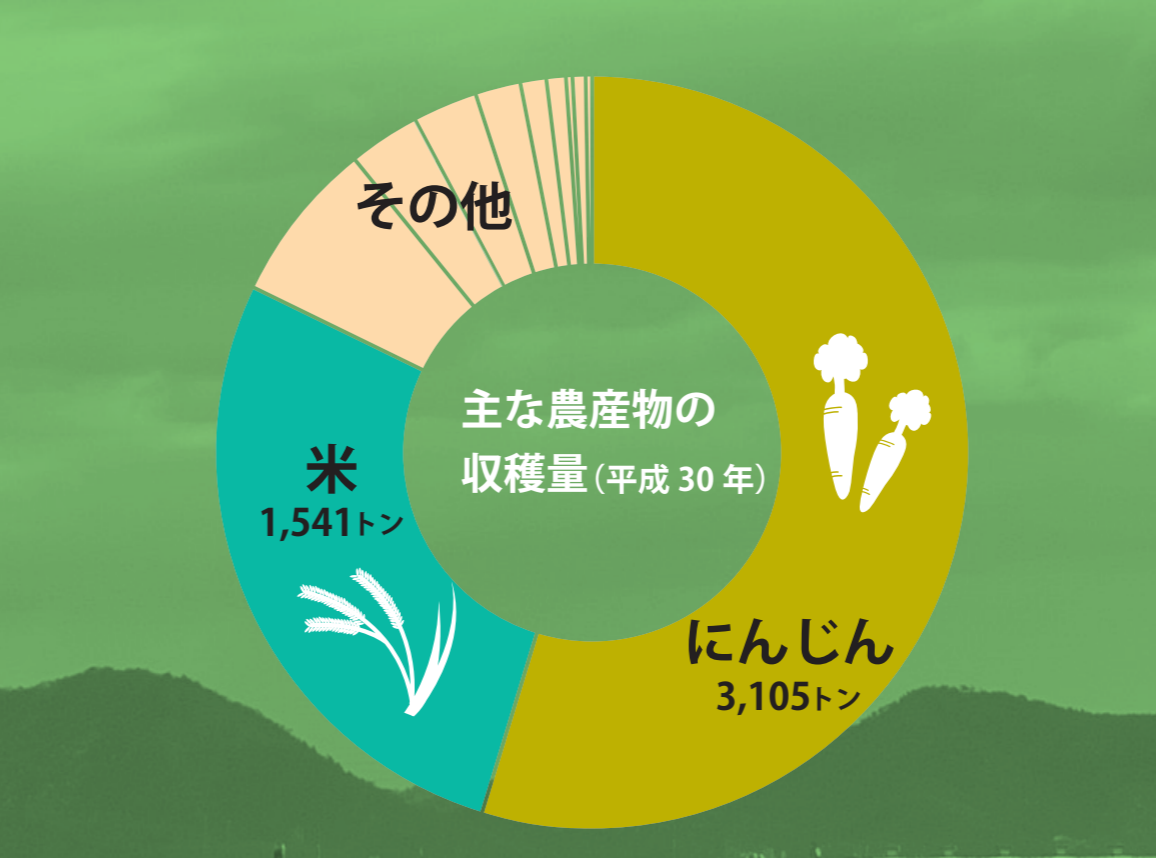
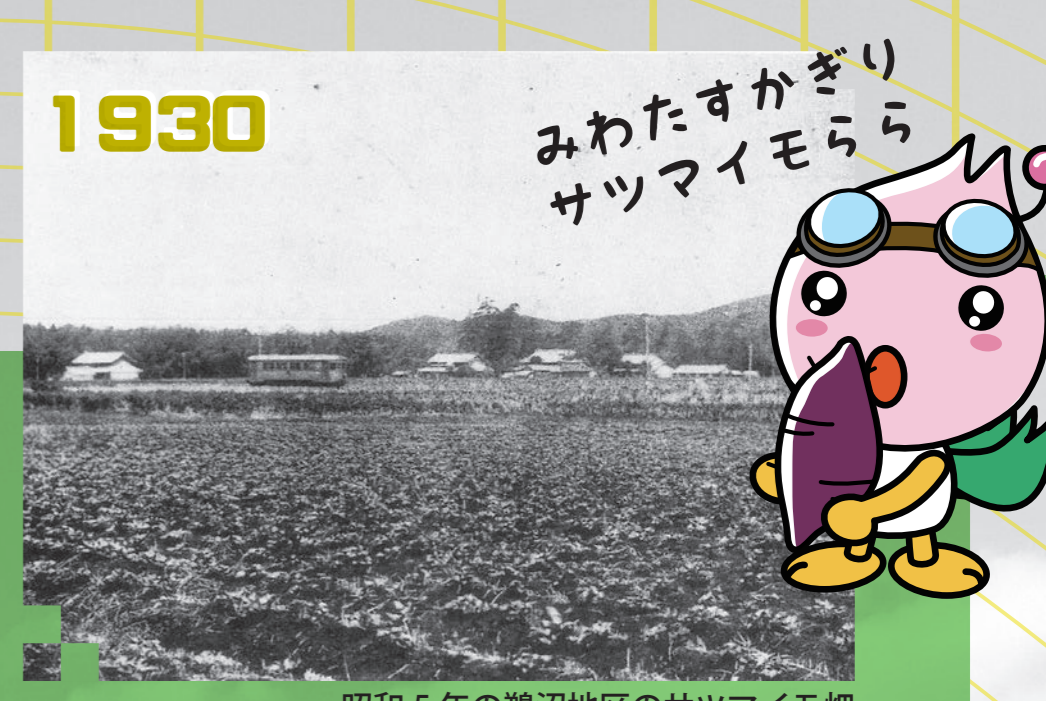


**CHECK IT OUT! しらべてみよう!**  
広い土地が必要なスーパーマーケットを作るため、市内では、ある工場の跡地がよく利用されました。何の工場かな？

ヒントはこちら

## 農業 AGRICULTURE

鷺沼地区には、広いニンジン畑が広がっています。2016(平成28)年に完成した「JAぎふ各務原にんじん選果場」では、収穫したニンジンの洗浄や選別を自動で行っています。また、市内のいろいろな団体が協力して「各務原にんじん」のブランド化を進めています。  
昭和初めころまで、各務原市の特産品といえば、サツマイモでした。しかし1955(昭和30)年ごろからサツマイモの価格が下がると、かわりにさかんに作られ始めたのがニンジンでした。  
1957(昭和32)年ごろに、各務原台地での栽培に適した「短根ニンジン」が作られ始めると、全国でも珍しい2回の収穫ができるようになり、名古屋市などへも出荷されるようになりました。



現在は、市内各地で米作りが行われていますが、もともと、各務原台地は川が少なく、水が不足しやすいため、米作りに不向きな土地でした。日照りが続くとも米が作れなくなるため、ため池が作られ、雨ごいをして米を作っていました。  
そこで、もっと安定して米が作れるように、関市の長良川から水を引く「各務用水」が計画されました。反対運動や濃尾震災などをのりこえ、16年の歳月をかけた、1901(明治34)年に完成しました。1932(昭和7)年には、木曾川から水を引く「羽島用水」も完成しました。  
今でも、多くの田が各務用水や羽島用水の水を利用して米作りをしています。地図を見ると、用水に沿って農地(緑色)が集中していることがよく分かります。

**CHECK IT OUT! しらべてみよう!**  
地図を見ると、まちの中央のあたりだけ、農地(緑色)が見られないね。どうしてだろう、理由を考えてみよう!

ヒントはこちら